

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市 越廼中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

有識者(2人) 越廼公民館(1名)
青少年市民会議(1名) 越廼中学校PTA(2名)
越廼中学校教員(3名) 以上9名で構成。

(2) 協議会の内容

※開催回数

6月24日(月)、12月8日(日)
2月10日(月)の3回実施

※協議内容

- ①令和元年度スクールプランについて
- ②令和元年度修学旅行について
- ③学力向上にむけた取組みについて
- ④越廼PRの取組みについて
- ⑤越廼中いじめ防止基本方針について
- ⑥登下校の危険個所について
- ⑦学校評価結果について
- ⑧スマートルール、家庭学習、読書推進について

(3) 協議会における成果と課題

協議会では①スクールプラン説明と、学校評価結果に基づく教育実践とその効果の検証。および今後の学校教育活動への助言。②越廼PR(越廼地区活性化プロジェクト)活動や越廼地区海外派遣事業(修学旅行)等、地域と関わって実施された学校教育活動の取組状況についての説明。③地域の危険個所の確認とその対応。④家庭での情報通信機器の利用や家庭学習・読書など、家庭・地域における生徒の生活に関する情報交換。などについて協議し委員間で具体的な情報共有が行われた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

「こしのさかなまつり」などの地域行事や「ハピテラスでの水仙配布」「越廼サミット」など中学校独自の取組を「越廼PR(越廼活性化プロジェクト)」と称して総合的な学習の時間を中心に行っている。様々な企画を生徒が自主的に計画・実施することを通して、表現力やコミュニケーション能力、先を見通す力やトラブルや困難に対応する力など、「生きる力」につながる社会人として必要な力を身に付けさせることをねらっている。また、こうした活動に取り組むことで、生徒の自己肯定感や愛郷心が高まることをねらう。

(2) 活動の実際

①「水仙植付と配布」(全学年)10月28日(水仙植付)、11月15日(水仙配布)

越廼地区の園児・児童・生徒とPTA、また老人会や社会福祉施設等の地元各団体の参加を得て、水仙農家等の寄附による球根1200球を約500鉢に植え付け、水仙の育て方を記した生徒手作りのカードを添えて福井駅前ハピリンで配布した。事前の告知ポスターを見て集まった人々やJR福井駅を利用する人々らが笑顔で水仙ポットを受け取っていた。また、配布前には「越本新喜劇」と銘打った桃太郎をもとにした生徒の創作劇を特設ステージで発表し、来場者を大いに沸かせた。生徒にとって、道行く多くの人に進んで声をかけ、県花「水仙」と越廼地区について一生懸命説明することが、越廼地区のすばらしさを再確認するよい機会となった。また、地域の方々と共に越廼地区をPRできたことに達成感を感じていた。



(写真上：水仙植付 下：水仙配布)

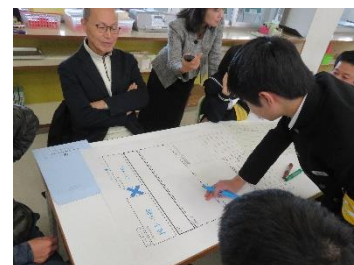
(様式3)

②「町おこし新聞」の発行と地区全世帯配付 (通年)

「町おこし新聞」編集委員を中心に、地域の活性化に向けた取組を新聞にまとめ、毎月地域の全家庭に配付している。本年度は発行4年目となり、令和2年2月現在で通算第41号を発行し地域に浸透している。

③「越廼サミット」の実施 (全学年) 12月8日

「越廼サミット」は、生徒が取り組んだこの1年間の「越廼PR」を、保護者や地域の方に報告するとともに、次年度のPR活動の方向性や企画について、地域の様々な立場の方からアドバイスを受けながら考えをまとめていく活動である。越廼地区をPRする上で効果的な活動は何かを本サミットで考えることは、活動の意味を明らかにする上で有効であるばかりでなく、学校外部からの評価を得ることで「越廼PR」を俯瞰して捉え直し、この活動を通じて自分たちがどのような力を身に着けたのか、自身の成長を実感できる活動である。



越廼サミット

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・ 茨崎の漁港で行われた「こしのさかなまつり」では、茨崎漁協に勤務するコーディネーターが学校の諸要望を、漁港を管理する地元漁業者との間で調整した。事前の下見において教職員に同道し、地域特産品販売ブースの設置場所や段ボール船を使ったパフォーマンスを実施するための設備利用の諸注意を提案するなど、生徒が活動しやすい環境整備に尽力した。
- ・ 「水仙のポット植付け」「水仙配布」では、地元の水仙農家を取りまとめているコーディネーターが、越前水仙の里公園や福井市園芸センターとともに水仙の球根を無償で学校に提供できる段取りを取ってくださった。また自治会、地域の社会福祉施設や諸団体等に積極的に声をかけ、のべ30名を超える参加者を募り自身も活動に参加するなど、園・小・中学校合同での子供たちの活動を率先して支えた。

(4) 特に工夫した事項

「越廼PR」活動を行うことで、どのような力が身についたかを生徒自身が実感できるように、学校外部の評価も取り入れながら、ポートフォリオを活用して活動の振り返りをすすめた。また、教師による活動評価も併せて行い、それぞれの活動のねらいとその達成度合いを判断し生徒の考えを尊重しつつも企画のスクラップアンドビルドをすすめている。

(5) 成果と課題

地域の方々とともに地域の発展を願って始めた越廼中の「越廼PR」も、活動4年目を迎えた。これまで、地域の様々な行事に生徒が参加し、地域の大人と触れ合う機会も多いため、学校が取り組む「越廼PR」に対して地域の期待や信頼もますます高まっている。令和元年11月21日には、これまでの「越廼PR」の取組みが評価され、令和元年度「未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー」内閣府特命担当大臣表彰を、越廼中学校生徒会が受賞した。

一方で、今後は地域の高齢化と生徒数の減少によって地域の方々の協力が十分に得られなくなることも予想され、これまでのような活動をすべて継続して実施することが難しい状況にもある。「越廼PR」の企画等については、学校教育目標に照らして、生徒が育むべき資質・能力を教師・生徒ともに振り返り、たとえ少人数であっても、効果的な教育活動として継続・実施していける方法を考えていきたい。

(様式 3)

